

第 18 回西日本技術士研究・業績発表年次大会(倉敷)

四国本部副本部長 右城 猛

1. まえがき

11月16日(金)17日(土)の日程で、18回目となる西日本技術士研究・業績発表年次大会が倉敷で開催された。近畿本部、中国本部、九州本部、四国本部の持ち回りで開催されており、来年は10月25日、26日に高知市で開催される。

四国では平成15年に松山市、平成21年に徳島市で開催されている。高知は初めてである。主催は日本技術士会四国本部であるが、実質的には高知県技術士会が準備や運営をしなければならない。

来年の大会に備えて勉強するため参加した。初日のテクニカルツアーとレセプションへの参加は、高知からは私たち夫婦だけであった。

2. テクニカルツアー

倉敷市の美観地区にある大原美術館と歴史的街並みを見学する。



集合時間13時の10分前に大原美術館の入り口でテクニカルツアーの受け付けを済ませ、14時50分まで自由に大原美術館の本館、工芸・東洋館、分館を見学する。

大原美術館は、倉敷の実業家・大原孫三郎が1930年に設立した日本で最初の西洋美術館。ギリシャ神殿風の本館には、エル・グレ

コ、モネ、ルノアール、ゴッティンなど世界の巨匠の作品100余点が展示されている。

作品の多くは、大原がパトロンとして援助していた洋画家児島虎次郎に託して収集したもの。

大原美術館の代名詞のようにになっているエル・グレコの「受胎告知」は、渡欧中だった児島が、パリの画廊で売りに出ているものを偶然見出したもの。100億円以上の価値があるとされている。

私の脳裏に強烈に焼き付いた作品は、「受胎告知」とレオン・フレデリックの「万有は死に帰す、されど神の愛は万有をして蘇らしめん」という作品であった。フレデリックの作品は7枚で構成されており、完成までに25年の歳月が掛けられた大作である。小島が無理に頼んで譲ってもらったとされている。

入館者数は年間40万人と多い。

大原美術館は中学校の修学旅行も含め過去に2度は来ているはずであるが、ほとんど記憶に残っていなかった。



2時50分より、2組に分かれて美観地区の街並みをガイドの案内で見物する。

ガイド役は、倉敷案内人グループの藤野利明(代表)と山本氏。二人とも大ベテラン。



昭和 3 年(1928)築の有隣荘。大原孫三郎が別邸として建てさせたもの。



倉敷川を舟で遊覧する観光客。20 分で一人 300 円。



白壁やなまこ壁の土蔵。



倉敷川沿いの街並み



大正 5(1916)年築の旧倉敷町役場(国登録文化財)



明治 42 年に創業された旧倉敷地区では唯一の地酒屋，森田酒造。

20 年のキャリアを持つベテランガイド藤野利明氏。知識とユーモアは豊富。知識はインターネットや観光客から入手しているので、ときどき間違っていることもあるとのこと。



レセプション会場になった倉敷アイビースクエア。1889年に建てられた赤レンガの紡績工場を利用した歴史あるホテル。



倉敷アイビースクエアの中の「児島虎次郎記念館」(国登録文化財)。大原孫三郎と生涯親交を持った画家、児島虎次郎を顕彰する施設。児島虎次郎の作品が展示されている。

3. レセプション



18時より倉敷アイビースクエアでレセプションがあった。会場入り口で、日本技術士会の内村会長、中国本部の近藤本部長、中国本部の木口副本部長らが参加者を迎えた。



実行委員長の木口副本部長が歓迎の挨拶。



中国本部の近藤英樹本部長が主催者挨拶



約65名の参加者があった。



倉敷市の河田育康副市長が来賓挨拶。河田副市長は建設部門都市計画の技術士。



年次大会で記念講演をしていただく岡山大学の馬場俊介教授が来賓挨拶。



内村会長を囲んで記念撮影



日本技術士会の内村好会長が乾杯の音頭。



内村会長と歓談



アトラクションは、備中真備太鼓保存会による演奏。



来年の10月25日、26日は高知で西日本技術士研究・業績発表年次大会が開催される。次回開催地の代表として挨拶をし、その中で下記の3点を計画していることを披露する。

テクニカルツアーでは、坂本龍馬が土佐に震天丸に乗って帰ってきた際に船上から目にした桂浜・浦戸湾を、観光遊覧船に乗って龍馬目線で眺める。

レセプションは、料亭で舞子と一緒に土佐のお座敷遊びを楽しんでいただく。

レセプションのアトラクションには、今年



ドジョウすくいのような、ユーモアたっぷりの「竹の子掘り」の踊りが披露された。

のよさこい祭りで優勝した「トラックチーム」
を呼んで鳴子踊り見ていただく。

奥さんも同伴でたくさんの方に来ていただき
きたいと挨拶した。



中国本部の住居孝紀副本部長による中締め

4. 研究・業績発表会式典

11月17日(土)9時30分より倉敷芸文館ア
シアターを会場にして、研究・業績発表会
に先立ち式典が行われた。



会場の様子



司会を務める中国本部の太田事業委員長



主催者挨拶をする中国本部の近藤本部長



会長挨拶をする日本技術士会の内村好会長



来賓挨拶をする岡山県土木部の吉永知弘技術
総括監



来賓挨拶をする倉敷市穴村範夫技監

5. 記念講演

10時より岡山大学大学院の馬場俊介教授より「人々に尽くそうと、知恵を絞った戦国末期～江戸時代の土木巧者たち」と題する講演をしていただいた。

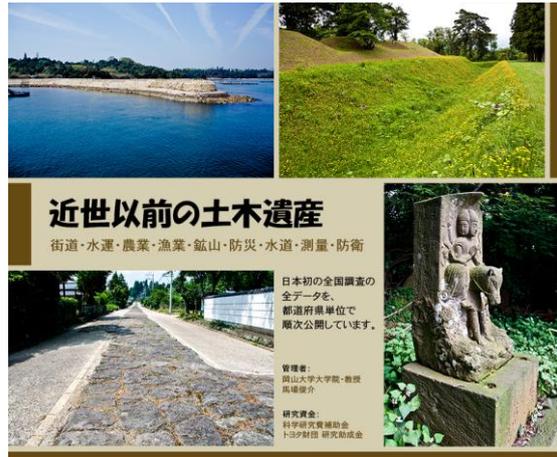


講演をされる馬場教授

冒頭、自己紹介があった。構造力学で有名な成岡昌夫先生の最後の弟子で構造力学を専攻していたが、日本近代土木遺産に興味を持ち、調査の代表をしている。最近では、西洋文化の影響がない近世以前の土木遺産の調査・修復を行うことで社会貢献しているということであった。

講演では、山梨の信玄堤本土手と三分一湧水、富山の佐々堤、韓国の西生浦倭城、熊本城、熊本の馬場楠井手の鼻ぐり、広島福島の堤防、高知の山田堰、岡山の友延新田の井田、閑谷学校の石垣、香川の仁池、鹿児島島の長崎堤防などの土木遺産の紹介があった。

これら土木遺産のバックデータは、馬場教授管理されているウェブサイトで公開しているのでご覧いただきたいというお話であった。



馬場教授が管理されているホームページ

馬場教授の講演を拝聴し、われわれの先祖は驚くべき工夫をしている、土木遺産を調べることで現代土木技術では解決できない問題を解き、新技術を開発するヒントになるのではないかと思えた。

6. 論文発表

11時より「社会貢献への技術士の役割」をテーマにした論文が、近畿本部2編、中国本部4編、四国本部2編、九州本部2編、合計10編の発表があった。

四国本部からは小比賀正昭幹事が「香川県技術士会"プラスワン"による出前授業の取り組み」と題して、明坂防災委員長が「四国本部及び県技術士会の防災支援活動等への取り組み」と題して発表された。

10編の発表後、中国本部の乗安企画総務委員長が大会講評をされた。

四国本部の加賀本部長が次期開催地代表鳥挨拶、中国本部の木口副本部長が閉会挨拶をして、年次大会が幕を閉じた。

(2012年11月17日記)